（1） 主題名　環境保全　〔小学校高３－（1）〕

（2） ねらい　自然破壊のもとが人間にある場合が多いことを理解し，環境を保全しようとする態度を育てる。

（3） 資料名　「『森の人』オランウータン」（出典：きみがいちばんひかるとき５年　光村図書）

資料の概要

マレーシアの熱帯雨林に生息するオランウータンは，今，絶滅の危機にさらされている。原因はペットにするために密猟を行っていることや，生息地の木の伐採による住環境の悪化であり，いずれも人間の身勝手な行為によるものである。伐採された木は，日本で大量に消費されている。また，オランウータンだけでなく，世界のあちこちには，環境の悪化により，絶滅の危機にさらされている動物たちがいる。私たちは，同じ地球に住む仲間である動物たちを，次の世代へ送り届ける義務を負っている。

（4） 学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　食器を洗う洗剤の原料について考える。	○食器を洗う洗剤は何からできているでしょう。 ・せっけん ・石油	○ふだん何気なく使っているものが自然破壊と関係があることに気付かせるためのきっかけとする。
展開	2　資料を読んで絶滅寸前の危機について考える。	○オランウータンの生活にとってなくてはならないものは何でしょう。 ・熱帯雨林 ・木の実 ○オランウータンが絶滅寸前の状態なのはなぜだと思いますか。 ・人間がペットとして母親を殺し，子どもだけとってしまっている ・洗剤にするパーム油をとるために木を切ってしまった ・木材の伐採によりすむ場所や食料がなくなった	○木がなければ生きていけない点をおさえる。 ○日本がパーム油や木材をたくさん消費していることが分かり，島の自然を破壊していることに気付かせたい。
	3　環境保全について考える。	◎動物の絶滅の原因を知って，自然との共存についてどんなことを考えましたか。 ・人間が環境を破壊したのだから人間が環境を守るべき ・木を切らない ・洗剤を使い過ぎない ○自然環境を守るために自分にできることにはどんなことがありますか。 ・ごみを捨てない ・リサイクル	○人間が豊かに生活していくためには，科学や産業の発達も大切なことだが，自然との共存が大切なことだということに気付かせたい。 ○「共存」という言葉の意味について補足説明する。
終末	4　教師の説話を聞く。	○美しい地球の様子を見ましょう。 （VTR で自然の美しさを映す。） ・自然をこわさいようにしていこう ・地球のみんなで考えていかなければ	○美しい地球の自然の風景を BGM とともに映し，余韻を残して終わる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

科学技術の進歩とともに，生活が便利になった反面，自然が失われつつあるということは，一つの国や地域の問題だけでなく，地球規模の問題として考えていく必要がある。日本とは遠く離れた国でおこった環境破壊が，実は日本にも大きく関わっているということをオランウータンの絶滅の危機という事実を通して考えていく資料である。

私たち人間の営みが絶滅の危機を生むことについて考え，自分にできることを行動していこうとする実践への意欲を高めていくきっかけとしてよい資料である。

２　指導過程の工夫

導入では，ふだん自分たちが何気なく使っている洗剤やわりばしの原料を考え，それらの大量消費が多くの木の伐採につながり，そして動物の絶滅にもつながっていることを考えるきっかけとしたい。

展開では，読み取りにならないように，自分たちの生活との関わりを考えさせながら，オランウータンの絶滅の原因について自分が考えたことを交流し合う時間をしっかりとっていくようにした。その中で，自分にできる環境保全を考えていくように展開をすすめていった。

終末では，「自然っていいなあ」「自然を守らなければ…」と感じるように，音楽と映像で大自然の美しさや雄大さを感じさせて，余韻を持たせて終わらせた。

３　発問の工夫

「オランウータンの絶滅を知って自然との共存についてどんなことを考えましたか」という発問では，学校近辺のほたるやどじょう，クマタカの減少なども提示し，オランウータンに限らず，ごく身近な自然の問題も含めて，自分が考えたことを自由に交流できるようにしていった。

４　児童の反応

事前に，総合的な学習の時間に身近なクマタカの生態や絶滅の危機について学習していたことで，児童が興味関心を持って考え，クマタカのこととつなげた発言が出ていた。「オランウータンの絶滅の原因を知ってどんなことを考えましたか」という発問に対しては，「人間はすごく勝手だと思う」「森林がなくなるから紙の無駄使いはやめたい」などの意見が出た。自分たちにできることとしては，「ペットボトルをリサイクルする」「ごみを出さないようにする」「買物袋を再利用する」「牛乳パックを再利用する」という意見が出た。

５　授業後のフォローアップ

知識として知ったこと，心情として「自然を守っていこう」と考えたことが行動として表われるように，環境問題についての新聞記事を提示するなど，機会をとらえて，自然の大切さ，自分にできることを考えさせていきたい。と同時に実践の場としてごみゼロ活動などの活動を行っていきたい。

（本地小学校）